

説教要旨「そして神に至る」

ルカによる福音書3章21～38節

イエス様は、洗礼者ヨハネよりも優れているからヨハネの洗礼など受けなくて良いと、このヨハネと関係のないところで活動を始めたのではなく、洗礼者ヨハネからの水の洗礼を受けた者として、福音宣教の歩みをイエス様は始められました。イエス様がここで受けられた洗礼は、ヨハネからの「水」による洗礼でありながらも、それに留まりません。「祈っていると、天が開け、聖霊が降った。」のです。そして、天からの声が響くのです。

「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」

ルカの系図は、このイエス様が神の子であると示すことに関心があります。救い主は神の子としてこの世に来られたことが重大なのであって、血のつながりということを重視していません。それはこの系図の最初で「イエスはヨセフの子とされていた」と言っているにも関わらず、そのヨセフから遡っていることにも表れています。ルカがここで見つめているのは、ヨセフとの血のつながりの有無ではなくて、主イエスはヨセフの子、つまり一人の人間の子であると思われているが、実は神の子なのだ、ということなのです。

そしてこの系図は、ここに並べられている全ての人々もまた神の子であることを示そうとしています。彼らは主イエス・キリストの系図につながる者とされたことによって、神の子とされたのです。そこに、これから始められようとしている主イエスの救い主としての活動の意味、目的が示されています。イエス様は、もともと主なる神様の独り子であられる方です。しかしその神の子が、アダムの子孫として人間となってこの世にお生まれになり、救いのみ業を行なって下さったのです。このイエス様による救いにあずかり、イエス様とつながることによって、私たちも神の子とされるのです。

(2018・4・29 説教者：稲垣真実)